

2021年1月29日

HOBIA NEWS No.368

- 2021 HOBIA 理事長年頭ご挨拶
- 令和2年度 HOBIA 冬期例会のご案内

● 2021 HOBIA 理事長年頭ご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。昨年の年頭あいさつで、昨年夏に開催される予定であったオリンピック・パラリンピックについて触れました。ところが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で開催が一年間延期される事態となってしまいました。昨年は、オリンピック・パラリンピックに留まらず、人々の活動全てに新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼしたと一年と言っても過言ではないと思います。

当会でも、令和2年度 HOBIA 通常総会の書面表決やバイオインダストリー振興団体全道会議のオンライン会議など、所謂“3密”を避ける形で行わざるを得なくなり、会員の皆様にご不便を掛ける結果となったことをお詫びしなければなりません。

人類は、これまでに、天然痘、ペスト、“スペインかぜ”などの新型インフルエンザ、抗生物質抵抗性を示す結核など、数百万人～数千万人の死者を出す感染症のパンデミックに遭遇してきましたが、医学や関連する技術開発により、死者の数を減らすことに成功してきたと思込んでいた私にとって、現在の世界の死者が200万人に迫る今回の新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）によるパンデミックの発生は驚きでした。

新型コロナウイルスに関する情報は、テレビや新聞による報道や解説のみではなく、インターネットを介した情報の迅速な拡散によって、多くに人々に知らされる時代です。少し前まで研究者間でしか理解されなかったPCR、抗体、mRNA、スパイクタンパク質等の単語が、日常的にテレビのワイドショーなどで取り上げられ、瞬時にSNSなどで拡散して行きます。番組では、多くの“専門家”が、分かり易く解説を行って居るとは思いますが、情報は拡散の過程で、まさにウイルスのごとく変異したり、誤解や誇張されたりして、必ずしも正しく人々に伝わっていないのではないかと懸念します。

もちろんわが国は、諸外国に比べ感染者や死者の数が少ないなど、新型コロナウイルス感染症対策が破綻した状況ではありませんが、多くの人々が現状に不安や不満を持っているのも事実と思います。

また、経済活動の維持と感染予防対策とのコンフリクトや特に大都市部における人々の行動変容の難しさ、医療体制の地域格差や医療従事者の不足、生産拠点の海外依存や誤った情報拡散に依る昨春のマスク、消毒液、トイレトペーパーの不足問題、介護老人保健施設や地域の医療機関での集団感染発生に伴う保健所を含む地域医療体制の危機などわが国が作り上げてきた社会システムの脆弱性も明らかとなって来ています。

今回のパンデミックから教訓を得て、より強い社会システムを構築するためには、医療、製薬と言った疾病治療に直接関わる分野のみではなく、経済学、情報工学、統計学、生産・流通工学、サイエンスコミュニケーションなどの幅広い分野の協力が不可欠であることは、明らかであると思います。産学官の幅広いメンバーで構成するHOBIAが、このような動きの中でお役に立ちたいとの決意を申しあげると共に、皆様にとって、令和3年が、平穏で良い年となることを記念して新年の挨拶とさせていただきます。

特定非営利活動法人北海道バイオ産業振興協会
理事長 北野邦尋

● 令和2年度HOBIA冬期例会のご案内

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況ではありますが、例年通り冬期例会の開催を下記の要領で企画いたしました。今回は、北海道で発展が期待されている医療分野でのバイオ技術について、道内外からの講演者をお迎えしてご講演いただくことにいたしました。バイオ技術の各分野でご活躍なさっている会員の皆様におかれましては、興味深いテーマと存じますので、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。**(リアル+オンラインのハイブリッド開催です)**

日時：2021年2月4日(木) 13:15~17:00

場所：北海道大学学術交流会館 小講堂

13:20~14:50

1) 「医療イノベーション創出のための産官学の連携—北海道大学病院の試み—」

北海道大学病院 教授 **荒戸照世 氏**

【要旨】 我が国においてライフサイエンス分野の基礎研究成果は必ずしも実用化に結び付いているとは言えない状況にあった。そこで、企業のみならずアカデミアにおける基礎研究シーズの発掘・育成や臨床 POC (Proof of Concept) の取得に期待が高まり、医療イノベーションを推進するための種々の施策が講じられてきた。こうした流れを受けて、北海道大学病院でも創薬に向けて、基礎研究から臨床研究/治験の実施までを一貫して支援する体制が構築されるとともに、細胞プロセッシングルームやバイオバンク、Phase Iユニットといった設備が備えられた。こうした支援により、複数の医療機器や再生医療製品が製造販売承認を取得(動体追跡陽子線治療装置は米国 FDA でも承認を取得)しており、研究支援に一定の成果が認められていると言えよう。そこで本講演では、北海道大学病院における取り組みについて、具体例を交え紹介したい。

14:50~15:00 休憩

15:00~15:30

2) 「大学・ベンチャーのアライアンス状況とバイオ戦略の展開」

一般財団法人バイオインダストリー協会 (JBA) 事務局長 **黒井正雄 氏**

【要旨】 バイオ分野では 11 年ぶりの政府戦略となる「バイオ戦略 2019」が、2019 年 6 月に総合科学技術・イノベーション会議で決定された。本戦略は、国内外からの人材、投資を呼び込み、我が国としては初めてバイオエコノミーの形成を図るものである。国内の優れた研究の成果を産業化するうえで産学連携、ベンチャー育成を含むエコシステムの構築は最重要課題である。産学連携の成果、現状からバイオ戦略のなかで目標とされる国内のバイオ拠点構想について報告する。

15:30~16:30

3) 「血液凝固第Ⅷ因子機能を代替するバイスパシフィック抗体医薬の創製による

血友病 A の治療革命」

中外製薬研究本部 シニアフェロー

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招聘教授 **服部有宏 氏**

【要旨】 血友病 A は血液凝固第Ⅷ因子の異常による出血性疾患で、従来の第Ⅷ因子補充療法では静脈注射の煩雑さや抗第Ⅷ因子抗体の出現という課題があった。これを、抗体分子により第Ⅷ因子の機能を代替することで解決しようと着想したのが 2000 年頃。研究員が丸丸となって独自の技術開発も行い、10 年以上をかけてエミシズマブという抗体医薬に仕上げた。奈良医大と、創薬から臨床まで一貫してそれぞれの強みで協働できたことが最大の成功要因であった。

16:30~17:00 総合討論

リアル参加ご希望の方は、[直接会場へ](#)、Zoom 参加ご希望の方は、[HOBIA ホームページ「問い合わせ」](#)から参加希望と入力、メルアドをご記入下さい。Zoom 接続情報を返信いたします。

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボほっかいどう内